高岡市立博物館に親しむ会

KA JI MARU

鍛冶丸

第14号

令和３年
３月１日

開館50周年記念 特別展「高岡のお宝展」

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会長　般若 慎一郎

現在の博物館本館は、昭和26年(1951)に高岡産業博覧会が開催された際に美術館パビリオンとして建設され、その後全国で戦後２番目となる公立美術館に転用されました。昭和44年(1969)、市制80周年・開町360年記念事業として美術館に隣接して博物館建設が決定し、翌45年(1970)6月1日に開館しました(現新館)。その時から数えて令和2年(2020)が50周年になります。

その後美術館は平成6年(1994)に中川1丁目へ移転し、平成10年(1998)から博物館本館として常設展示場になっています。

今回の特別展に展示された高岡のお宝は古文書や銅器など多岐に渡ります。関連事業の仁ヶ竹副主幹学芸員による講演会『博物館資料にみる高岡の歴史』を聴いて、多数の展示物の中でも特に面白いと感じたのが白銀町(しろかねちょう)の母衣(ほろ)武者飾りです。

母衣武者飾り

関野神社の氏子には、曳山を保有する山町とは別に母衣武者飾りを保有する町内があり、昔は5月1日の春季例祭に曳山行列を先導して母衣武者行列をしていたそうです。そのうち行列はしなくなり各町の宿に展示だけするようになりました。

しかし人口減少時代の今日ではそれさえも維持することが困難になり、白銀町の場合は道具一式を博物館に寄託してしまいました。

「高岡のお宝展」企画展示室にて

さてその中に甲冑があるのですが、加賀前田家の藩主しか使えない剣梅鉢紋が多数ちりばめられているのです。「白銀町はおそらく明治の時代に購入したと推測されるが、ひょっとしたら財政事情から前田家が手放したものが市場に出たのではないかと想像される。前田家14代にして最後の加賀藩主の前田慶寧(よしやす)所用の品かもしれない。」仁ヶ竹副主幹学芸員の大胆な仮説でしたが、そうに違いないと思ったのは私だけだったでしょうか?

目次

・開館50周年記念 特別展「高岡のお宝展」… 1
・加茂水族館物語 ー滅亡か再生かー…… 2
・「禅」と「スマートフォン」…… 3
・伏木保育園の母・堀田くにさん…… 4
・誌上で娯しむ“バス・ツアー”(クイズつき)… 5,6
・親しむ会ふりかえり……6～8

加茂水族館物語　ー滅亡か再生かー

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　四津井　宏至

山形県鶴岡市の郊外、かなり田舎の海岸に加茂水族館はあります。今日庄内地方の代表的観光名所として全国に有名になり、年間100万人ちかくが訪れるようになりましたが、旭川の東山動物園と同じように泪と苦難の歴史がありました。

加茂水族館（山形県鶴岡市）

開館は昭和5年（1930）と全国でも古いのですが、戦後復館したのは昭和31年（1956）。日本の経済発展と共に最高時は昭和42年（1967）に年間21万人以上の来場がありましたが、以降はじり貧に陥り、平成９年（1997）には9万2千人まで落ち込んでしまいました。建物は老朽化して経営も限界かと職員一同が覚悟をするようになった時、救いの神が現れたのです。

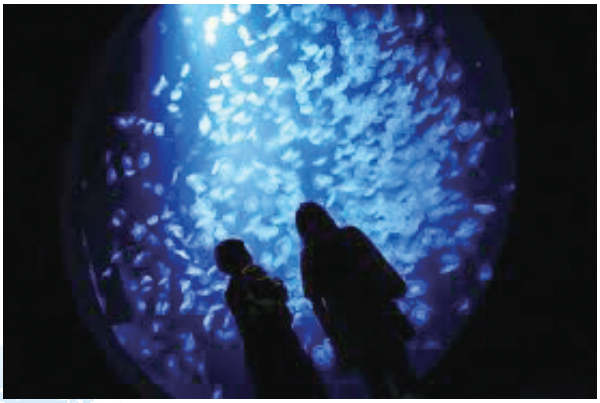
ある日、サンゴの水槽の中で小さな生き物ークラゲが泳ぎだしました。これが9年後に世界一のクラゲ水族館となる「芽生え」だったのです。クラゲに特化した水族館を造ることに目標を定め、一同努力しました。

訪れる人は序々に増え、平成20年（2008）に下村脩（おさむ）博士がノーベル化学賞を受賞された研究がオワンクラゲであったことも影響して、平成21年（2009）に入館者は21万7千人を超え、市からの補助金は一切なしで遂に黒字化を達成したばかりでなく1億2千万円を市に寄付しました。

また平成26年（2014）6月、隣に新館をオープン。市は年間来場者30万人、館長は50万人を予想していましたが、83万6千人を超える大盛況になりました。クラゲに特化してから入場者数は9倍になりました。

昭和43年（1968）から館長を勤め、経営危機には身銭を切ってクラゲ特化を先導した村上龍男氏は、平成27年（2015）に退任。後任にはクラゲ飼育技術を開発し、世界一のクラゲ水族館に導いた奥原和也氏が館長に就任。

沖縄の美（ちゅ）ら海水族館のように大規模ではないものの、世界中の珍しいクラゲが迎えてくれる楽しい見応えのある水族館です。ぜひ庄内観光の折には足を運んでみてください。



「クラネタリウム」

親しむ会からのお知らせ

高岡市立博物館に親しむ会が、

「令和2年度 ボランティア活動推進富山県民会議ボランティア奨励賞」※を受賞しました！

※特定非営利活動法人 富山県民ボランティア総合支援センター主催の「富山県民ボランティア・NPO大会」において、ボランティア・NPO活動に永年にわたって尽力し、その功績が顕著である団体が表彰されるものです。（奨励賞は活動が5年以上の団体）

太田久夫会長

「禅」と「スマートフォン」

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　山井　正樹

私の家の菩提寺は、高岡市太田にある国泰寺である。国泰寺は坐禅や虚無僧が独特なお寺で、臨済宗国泰寺派の大本山である。

私はお寺へ法要や作務のためによく通うのだが、コロナウイルス感染症の流行のためか、参詣される方は以前に比べ少ない。それでも御朱印を求めに、あるいは見学にとやって来る熱心な方々がいる。そういう方々は古色蒼然とした堂宇や美しい禅庭を撮影しておられるが、大多数がスマートフォン（スマホ）を利用している。私もようやく一昨年から使いはじめた、このスマホというもの、電話や写真撮影はもちろん調べ物やスケジュール管理にメモ機能、パソコンとのメールの同期などさまざまな高機能を手軽に扱えて、非常に便利なものである。いわゆるガラケーと呼ばれる旧来の携帯電話からスマホを一気に普及させる大ヒットとなったのは、ご存じアップル社のiPhone（アイフォーン）であり、iPhoneを作り出したのはアップル設立者の一人、スティーブ・ジョブズである。そこでジョブズと、国泰寺で受け継がれている「禅」の教えとの関係を少し紹介してみたい。

スティーブ・ジョブズは若い頃からヒッピーや禅の文化に傾倒し、生涯を通じて禅を理解することに取り組んでいたという。彼の仏教上の師は乙川弘文といい、カリフォルニアで活動した曹洞宗の禅僧である。平成3年（1991）、乙川はジョブズとローレン・パウエルとの結婚式を司った。

挿絵：志甫和三郎

一時アップル社を追われたジョブズは、迷った末に乙川の教えを請い、乙川は「禅とは掃き清めること」とアドバイスしたといわれる。

乙川につながる、海外に禅を広めた人物といえば、乙川の師、曹洞宗の鈴木俊隆が挙げられる。

鈴木俊隆は昭和34年（1959）に海を渡り、アメリカでの禅の普及に取り組んだ。鈴木俊隆は、日本から禅を伝えた「第二の鈴木」といわれていたが、では「第一の鈴木」とは誰か。鈴木俊隆が渡米する62年前、アメリカに渡り禅文化を世界に広めた人物で、それが「第一の鈴木」、かの鈴木大拙である。世界に禅とはなにかを伝えた立役者である鈴木大拙は、若き頃に国泰寺の雪門玄松禅師の元に参禅している。雪門禅師は明治時代の国泰寺において、廃仏毀釈の影響を受け、衰退した寺を山岡鉄舟らの協力を得て再興させた人物で、水上勉著『破鞋』の主人公にもなっている。

鈴木大拙が海外に紹介した雪門禅師らの禅、それが鈴木俊隆によってさらに広まり、さらに乙川弘文らからジョブズを含むアメリカの若者の心に伝わった。とすれば、国泰寺の禅の思想が現在世界中で使われているiPhoneのコンセプトに受け継がれているというのは言い過ぎだろうか。

国泰寺には、臨済宗の一派ともされる普化宗の吹禅（尺八演奏）を今に伝え、虚無僧装束での尺八演奏を行う「妙音会」が組織され、毎年6月2・3日の開山忌および法要には、読経と尺八の合奏という独特の習慣がある。また、例年5月に「緑陰講座」を実施しており、国泰寺末寺である聞聲寺の住職・秀峰和尚は、一日を通して坐禅・写経・講座・作務などで、自分を見つめなおす禅体験をぜひと話しておられた。

国泰寺での坐禅を通じて、スマートフォンに受け継がれる「禅の思想」を探るのも面白いのではないだろうか。

伏木保育園の母・堀田くにさん

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　松原 吉孝

伏木保育園は、大正15年(1926)に富山県で最初の民間保育所として高岡市伏木に創設されました。第1回の卒園児は、今年でちょうど100歳になるそうです。港湾で働く女性達とその子どもたちのために託児所を創設された堀田くにさん(1890～1985)は、どのような人だったのかと以前から思っていました。

そこで、この機会に、実際にくにさんと会ったことのある人を探しながら伏木の町を歩いてみてはどうかと思い、知り合いの家を訪ねました。幸い8人の方から話を聞くことができました。訪ねた順に、お話下さったことの一部をご紹介します。

●西念寺(氷見市南大町)

堀田家と遠縁にあたる友人から「お墓へお参りに行くので一緒に行かないか。」と誘われ、まずはくにさんのお墓に手を合わせるのが礼儀かと思い、堀田家のお墓のある西念寺へ行きました。大正6年(1917)に、堀田善右衛門さん（くにさんの父）が建立されたとお墓に刻まれていました。

●伏木の地元のみなさん

畳屋さん、数年前まで店を開いていた昆布屋さん、酒屋さん、伏木保育園の第1回目の卒園児の方の息子さん宅を訪問しました。

「畳の注文をもらって家に行ったことがあるよ。」
「よく昆布を買いに来てもらったよ。」
「優しいおばあちゃん、という感じだったよ。」

などと話をして下さいました。地元の人たちとも気さくに話をしておられたそうです。

かつての堀田家の裏側から見た、伏木の街並み

挿画:水上悦子

●念仏寺(高岡市伏木東一宮)

念仏寺は、95年前に託児所として開所された場所であり、くにさんが亡くなられた時に葬儀が執り行われたお寺です。ご住職からは、「昭和60年(1985)の夏の葬儀の時は、とにかく大勢の人が参列された。」と、思い出話を聞かせてもらいました。

伏木保育園

●伏木保育園

くにさんが亡くなられて35年経った今の伏木保育園はどんな様子かと思い、四代目の西尾園長さんに会い、多くの話を聞いてきました。何度も繰り返して話をされていたこと、それは保育理念である「敬愛の精神」についての話でした。

一人ひとりの子どもを大切にして、深い愛情で関わることの大切さについて、多くの例をあげて話をして下さいました。

創設時に堀田くにさんが掲げた保育理念は、95年経った今も、22名の先生たちにしっかりと受け継がれていました。

最後に、突然の訪問にもかかわらず、多くのお話をしていただいた伏木のみなさんに、心より感謝申し上げます。

誌上で娯しむ“バス・ツアー”(クイズつき)

高岡市立博物館に親しむ会 研修部会長　樽谷　雅好

郷土史を訪ねて②“走る博物館⑧”

『瑞龍寺のルーツ ー法円寺ー を遡る ②能登宝円寺』

(石川県穴水町～輪島市～七尾市)

これは、2020年7月9日に予定していたバスツアーのためのレジュメです。穴水、門前、田鶴浜、七尾、中能登と巡る筈が、コロナ禍で中止しました。せめてバス旅行しているつもりで「　」内に名詞を入れて、お勉強して下さい。

長谷部神社

(1) 長谷部神社・穴水城址 (穴水町)

1．長連龍…

・「①　　」神社←長谷部信連 cf.『平家物語』

神職＝「東四柳」姓

・穴水城址＝長谷部信連が築城？ のち、長一族が居城

ヒント　①長連龍の先祖である長谷部信連ゆかりの神社。

総持寺

(2) 総持寺祖院 (輪島市門前町)

・瑩山紹瑾(1268～1325)が元亨元年(1321)に開山

2.「②　　」(能登)…cf.越本山 (越前=永平寺)

3.瑩山紹瑾(1268～1325)…徹通義介の弟子

4.峨山韶碩(1275～1366)…瑩山紹瑾の弟子

※5.経蔵…寛保三年(1743)に前田吉徳が寄進。

「③　　」(41歳)が寺奉行。

ヒント　②越前の永平寺は「越本山」。一方、能登の総持寺は…。
③加賀騒動の、男性の方の、主人公です。

※昼食…「手仕事屋」(石川県輪島市門前町総持寺通り cf.「そばご膳」 ¥1,000)

(3) 龍松山東嶺寺(七尾市田鶴浜)…「④　　」の菩提寺

※6.長連龍(1546～1619)

孝恩寺(曹洞宗)の住職になり、僧形でありながらも孝恩寺を通称として戦場に出た。

天正5年(1577)、「⑤　　」が七尾城を攻め、孝恩寺は「⑥　　」の許へ援軍要請に赴く。

天正6年(1578)、七尾城が陥落し、孝恩寺は越中守山城・神保氏張に寄寓。cf.金光院

天正10年(1582)、柴田勢の魚津城攻めに従軍。同年6月2日の本能寺の変後は、前田利家の家臣となる。

同年の石動山の戦いに参加し、戦功により能登国内で31,000石を与えられた。

慶長4年(1599)の利家の没後は利長に仕え、翌年(1600)、小松の浅井畷の戦いで殿軍として奮戦。

連龍は前田家の主君・織田信長に所領安堵を受け、生涯41回の合戦に参加して勇名を馳せた。

「八家」と称される最上級の重臣となり、子孫も加賀前田家の家老として33,000石を領した。

・正室 ： 新 (「⑦　　」の妹)

・継室 ： 玉 (長 綱連・女)

・ 長　好連 (長男) ＝ 第21代当主

・ 長　連頼 (二男) ＝ 第23代当主etc.

ヒント　④後の「加賀八家」のうちの先祖。邸址は現在の玉川公園。
⑤関東管領となった、越後国・守護代。旧名は長尾景虎。
⑥前田利家が最初に仕えた主君。尾張国・守護代。
⑦佐々成政の家老格となった、守山城の旧・城主。

(4) 小丸山城(七尾市)…「⑧　　」が居城

ヒント　⑧前田利長の父と母!

長齢寺(七尾市)の前田利家・利長墓碑

(5) 休嶽山長齢寺(=能登宝円寺)(七尾市)…前田利家の家族

6Pへつづく

(6) **ふるさと創修館** (中能登町)…cf.「⑨　　」(5月1日)

※7.鳥屋の曳山…花傘型曳山 (←滋賀県甲賀市水口)

ヒント　**⑨5月1日の高岡関野神社の大祭で曳き廻される。**

(7) **洞谷山永光寺**(とうこくさんようこうじ) (羽咋市酒井町イ部11　拝観料 ¥300)

・瑩山紹瑾(1268～1325)が正和2年(1313)に創建

cf.「⑩　　」の慈雲妙意

ヒント　**⑩高岡市西田に建つ臨済宗の古刹。鎌倉時代に創建。**

※8.五老峰(ごろうほう)、白山社

1.五老峰　2.天童如浄語録　3.十二巻本「正法眼蔵(しょうほうげんぞう)」

4.徹通義介坐像　5.瑩山紹瑾坐像

6.明峰素哲(めいほうそてつ)坐像　7.峨山韶碩坐像

鳥屋の曳山

洞谷山永光寺

<答え>

①長谷部神社　②能本山(能登)　③大槻伝蔵
④長連龍　⑤上杉謙信　⑥織田信長　⑦神保氏張
⑧前田利家･まつ　⑨高岡御車山　⑩国泰寺

令和2年度 親しむ会ふりかえり

高岡市立博物館に親しむ会 事務局

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月～7月まで行事を開催できませんでした。しかし、8月以降は参加者の人数を減らし、感染拡大防止対策を徹底した上で行事を実施しました。こちらではその様子を紹介します。

高岡古文書(こもんじょ)ボランティア

令和2年　8月22日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日
令和3年　1月16日、2月20日、3月13日
基本毎月第3土曜日　14時～15時30分

令和2年3月から開催を見合わせていましたが、8月から再開。定員を10名に限定し、電話予約制にしました。参加者の方には体温測定、手指の消毒のご協力のほか、筆記用具を持参していただきました。また、密を避けるため、1つの場所に参加者2人＋職員1人にするなど、間隔を取った座席配置にしました。(R.I)

呈茶席(ていちゃせき)

令和2年　9月19日、26日、10月10日、17日
すべて土曜日　11時～15時

春の呈茶席はすべて中止になりましたが、秋の呈茶席は実施。参加者の方には体温測定、手指の消毒のご協力のほか、万が一に備え、茶券購入時に住所・氏名・連絡先をご記入いただきました。また、密を避けるため、掛待合(かけまちあい)でお抹茶を飲んでいただくのは2名ずつとしました。手渡しはせず、お盆の上のお抹茶とお菓子(包み紙つき)を参加者の手で取っていただくかたちにしました。(R.I)

※抹茶茶碗などの食器類の消毒を徹底した上で行いました。

歩く博物館 第28回の催し 「吉久を、歩いて、知る」

令和2年9月16日(水)

まだ夏の名残が消えない中、今年度に入って初めての歩く博物館が行われました。新型コロナウイルス感染防止策として、定員を減らし、現地集合・現地解散の形式での開催となりました。

集合場所の万葉線・中伏木電停前で参加者の方には体温測定・手指の消毒にご協力いただき、初めに講師の樽谷雅好先生（当会研修部会長）から、かつて存在していた「JR貨物新湊駅」に関する講釈を聞きました。そこから加賀藩の米蔵・吉久御蔵跡である西照寺へ向かい、次の吉久神明社ではちょっと面白い形の狛犬を見せていただきました（これとは別の石造狛犬（1対、1555年）が、令和2年12月23日に市文化財に指定されました）。

その後、伝統的な吉久の街並みを通り、地久子川、能町小学校址である高岡通運に立ち寄りました。

万葉線の沿線を中心に歴史ある吉久地区を歩き、樽谷先生の軽妙な講釈を聞きながら辿る旅は、約1時間半にも及びました。(R.I)

※令和2年12月23日付で、吉久地区は高岡市内3地区目となる、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

吉久の街並み

吉久御蔵跡にて

吉久神明社の狛犬

歩く博物館 第29回の催し 「放生津の『築山』を、知る」

令和2年10月2日(金)

好天に恵まれ、今年度2回目の歩く博物館が行われました。万葉線・東新湊電停で集合し、体温測定・消毒の後、道すがら巨大なわらじのある義常教会、「新湊大仏」でおなじみの光山寺を通り、歩いて放生津八幡宮へと向かいました。境内には築山と呼ばれる舞台が組み立てられ、その上に客人人形が祀られていました。この客人人形は年度ごとに主題が異なっており、今年度は明智光秀の旧臣・山崎長門守長徳の娘・亀が放生津城内で男児（後の加賀藩重臣・奥村栄政）を出産した時の様子があらわされていました。

射水市新湊博物館主査学芸員・松山充宏氏から築山行事の解説を受け（松山氏による現地解説は毎年行われているとのこと）、その後は法土寺町の曳山格納庫、放生山曼荼羅寺、立町の曳山格納庫、松屋武兵衛邸址に立ち寄り、新湊地区の人々に脈々と受け継がれる曳山・築山行事への熱い想いを肌で感じながら、約2時間の行程を終えました。(R.I)

※令和3年1月15日付で、「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」（射水市）は国の重要無形民俗文化財に指定するよう答申されました。

松山充宏氏による築山行事の解説

法土寺町の曳山格納庫

松屋武兵衛邸址

版画講座 ー木版画で年賀状を作ろうー

令和2年11月10日、17日
火曜日 13：30～15：00

今年度、初めて開催された版画講座。受講者は5名で、2日間に渡って行われました。下絵は木版画講師の水上悦子先生（当会広報部会員）が用意された令和3年の干支である牛のほか、椿、鞠などの中から各々好きなモチーフを選びました。初日は版木に下絵を写してひたすら彫る作業、2日目は版木を彫る作業を完成させて版画を刷るという工程でしたが、早くも初日で彫り終わった方もおられました。

2日目は全員版木を彫り終えた後、実際に先生の「刷り」の作業を見学。刷り上がった作品に感嘆の声があがりました。先生から刷る時の力を均一にすること、一色ないし二色の色を使うこと、自由な発想で色を選んで下さいとの説明があり、皆さん思い思いの色を彫った板に塗り込んでおられました。

絵の具を塗る作業と「刷り」は力を均一にしなければなりませんが、絵の具の水分量や力加減は存外難しく、「文字が不鮮明になった」、「絵の具の量が足りなかった」などの声が聞こえました。先生は「立ってすると力が均一にかかる」、「絵の具は塗るのではなく、刷毛を直角にあててすりこむような感じで」と具体的な指示をだされ、一人一人丁寧に対応されておられました。そして温かみのある木目が活かされた版画が次々と完成し、作品の出来ばえに皆さん満足げな様子でした。

(R.S)

下絵を写し、版木を彫る

版木に色をつける

刷り上がり

令和3年度 会員募集のご案内

あなたも会員となって、郷土への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりに参加してみませんか。

■主な活動
- 博物館の諸活動の協力、支援
- 高岡地域の歴史と文化に親しみ、互いに親睦を図る活動
- ミュージアムショップの運営　ほか

■年会費
- 一般会員　**1口 1,000円**
- 賛助会員　**1口 5,000円**

＊お一人さま何口でも可

■会員の特典
- 企画展、特別展、講演会などのご案内
- 歩く博物館、走る博物館行事への参加、高岡古文書ボランティアでの活動、呈茶席などのご案内
- 会報誌「鍛冶丸」の送付・郷土学習講座等の受講料割引
- 図録の進呈（賛助会員のみ）

親しむ会では、各種部会のメンバーを募集しています。

1. **研修部会**　事業企画、歩く博物館等サポート
2. **広報部会**　会報誌「鍛冶丸」の作成
3. **ワークショップ部会**　呈茶席運営・サポート
4. **高岡古文書ボランティア部会**　古文書の整理等

■申込方法

○直接、事務局に申し込みする場合は、入会申込書に必要事項を記入のうえ、会費を添えて「高岡市立博物館に親しむ会」事務局へお越しください。入会申込書は「高岡市立博物館に親しむ会」のホームページに掲載しております。

○郵便振り込みをご利用の場合は、振込用紙『払込取扱票』に以下の項目をご記入の上、郵便局にてお振込みください。なお、振込手数料は各自でご負担をお願いいたします。

・口座記号：00760－8　・口座番号：100749　・加入者名：高岡市立博物館に親しむ会
・金額：年会費の金額　・ご依頼人：郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、性別、年齢

<編集後記>

コロナ禍での活動に制限がある中、皆さまのご協力をいただき鍛冶丸14号、無事発行することができました。ありがとうございます。(R.S)
今回は広報部会の方々が筆を執ってくださり、とても賑やかな誌面になったと思います。これからも当会を宜しくお願いいたします。(R.I)
広報部会では皆さまのご参加をお待ちしています。ぜひご一緒に高岡市立博物館を盛り上げていきましょう。(S.Y)

高岡市立博物館に親しむ会　会報第14号
■事務局　〒933－0044　高岡市古城1－5　高岡市立博物館内
TEL 0766-20-1572　FAX 0766-20-1570
HPアドレス　https://www.e-tmm.info/　メールアドレス　info@e-tmm.info